

# クイック特許調査報告書

(ミニマムプラン)

2024年3月12日  
株式会社モズラボ

## 1. ご依頼内容

(本報告書はサンプルのため実際の依頼ではありませんが、電気自動車の駆動用モータについて、出願人や技術トレンドを知りたいお客様をイメージして作成しました。)

## 2. 検索方針

電気自動車の駆動用モータについて、出願人や発明の目的に着眼して調査した。対象とする自動車は電気自動車だけでなく、ハイブリッド車も含んで調査した。

## 3. 検索日

2024年3月9日

## 4. 検索対象文献

日本特許文献：特許登録公報、公開・公表特許公報

## 5. 検索対象期間

出願日 2004年1月1日～2023年12月31日

## 6. 総スクリーニング件数

1378件

## 7. 調査結果

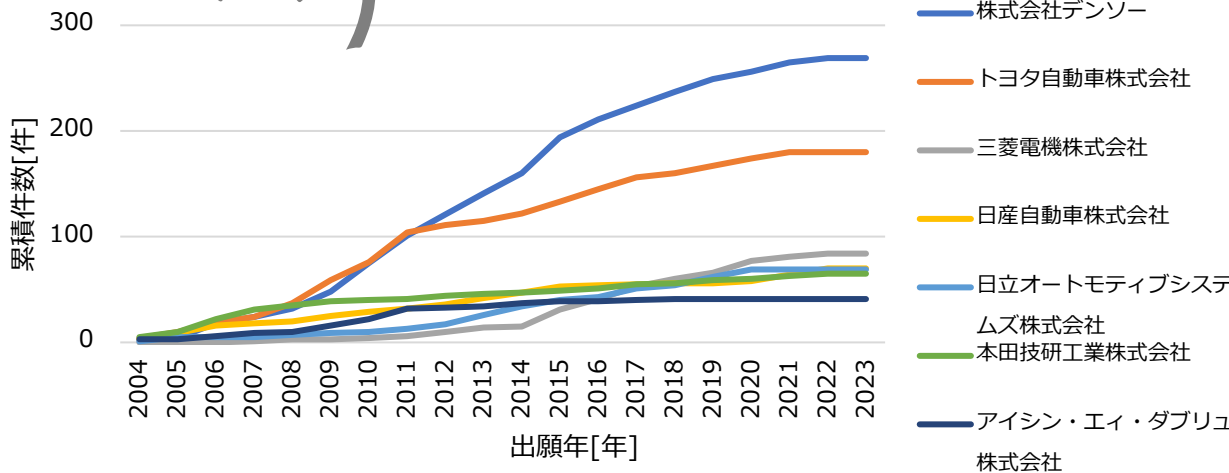


図1 出願人ごとの累積出願数

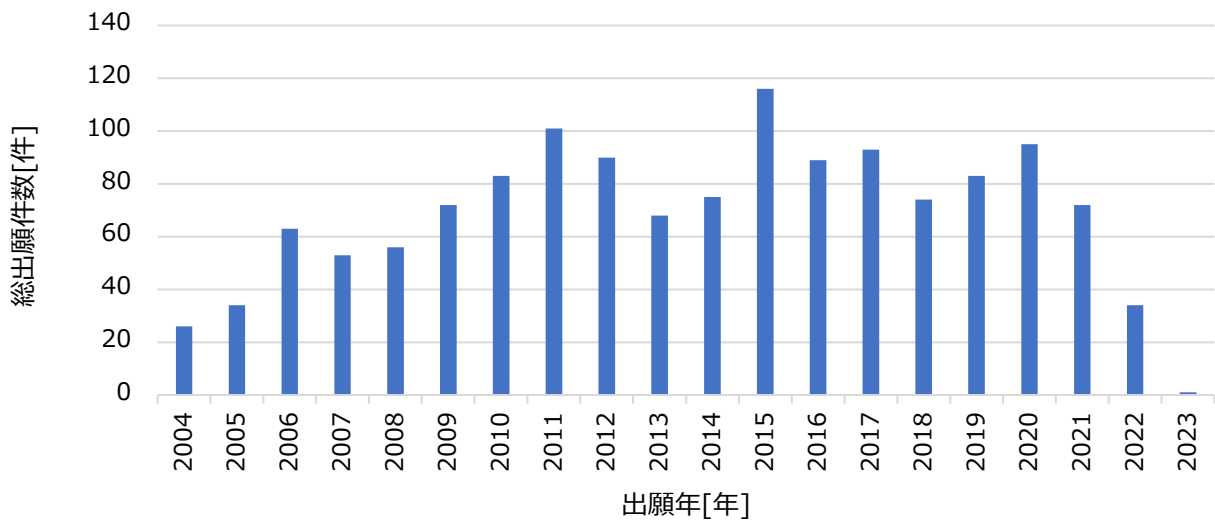


図2 総出願件数推移



図3 出願人ごとの件数推移

表1 発明の目的ごとの件数

単位：件

	高信頼性	騒音、振動を低減するもの	効率化、省エネ化	高応答性	小型化	電気ノイズを低減するもの	保守、試験	力率改善（無効電力を制御するものも含む）
株式会社デンソー	77	41	29	25	26	12	2	2
トヨタ自動車株式会社	68	31	26	16	3	9	0	0
日産自動車株式会社	16	21	7	15	5	5	1	1
日立オートモティブシステムズ株式会社	22	17	10	2	4	2	1	0
本田技研工業株式会社	16	11	19	6	5	1	0	0
三菱電機株式会社	20	21	8	5	4	2	0	0
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	8	11	11	2	1	2	0	1

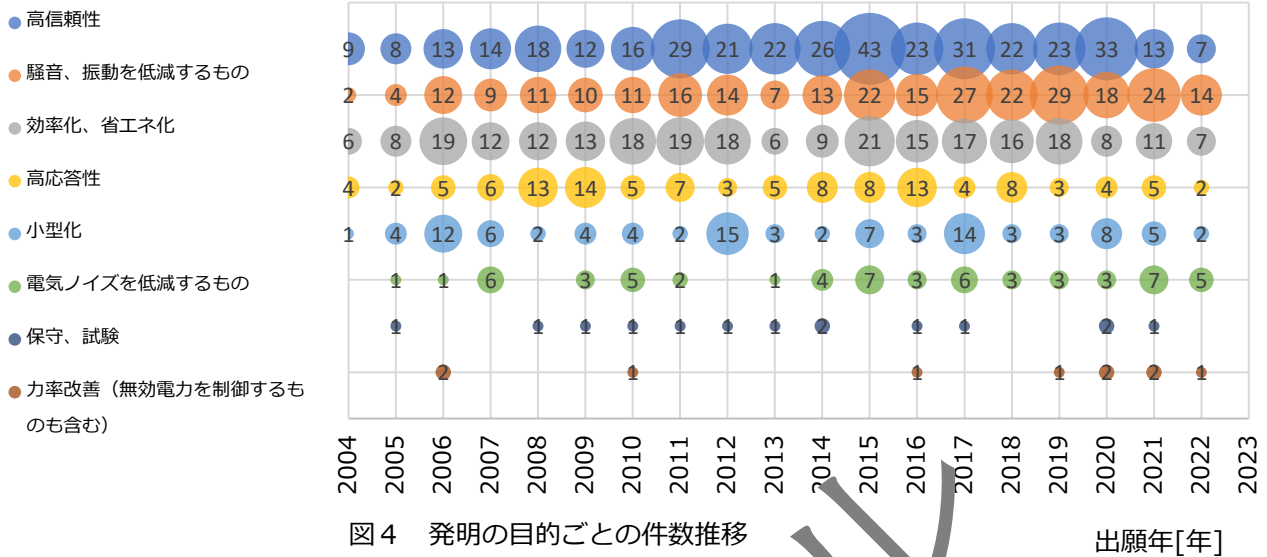


図4 発明の目的ごとの件数推移

出願年[年]

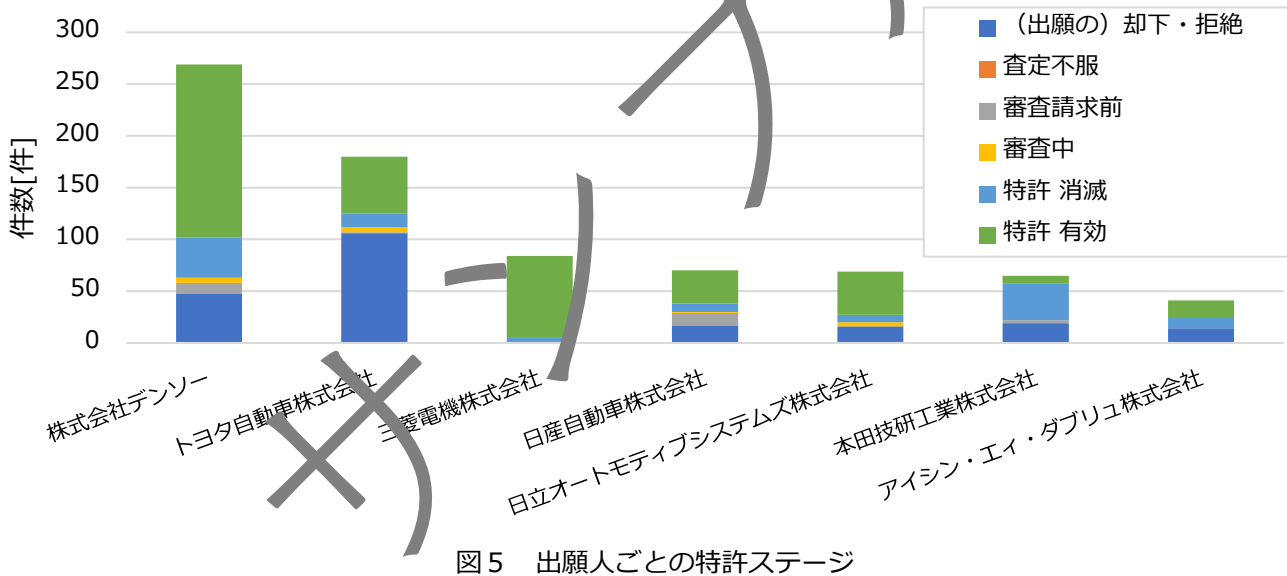


図5 出願人ごとの特許ステージ

## 8. まとめ

出願数上位の出願人はデンソー、トヨタ、三菱電機の順となっている（図1）。ただしトヨタは却下・拒絶された出願が多く、有効な特許件数では三菱電機の方が多（図5）。次に出願人ごとの発明の目的の特徴について述べる。デンソーは「小型化」に関するものの割合が多く、本田技研工業とアイシン・エイ・ダブリュでは「効率化、省エネ化」に関するものの割合が多い。三菱電機は「騒音、振動低減」に関するものの割合が多い（表1）。全出願人での技術トレンドを見ると件数上位は「高信頼性」「騒音、振動低減」「効率化、省エネ化」の順となっており、これらは、出願年に関わらず常に上位となっている。「小型化」「電気ノイズ低減」は5年程度の周期で件数が多くなっており、試作機を製作したときに生じた発明を出願していることが予想される。（図4）